

授業科目	日本語教育実習					実務家教員担当科目	-				
単位	4.	履修	選択	開講年次	3	開講時期	通年				
担当教員	Kristen Maree Sullivan										
授業概要	<p>日本語教育関連科目の最終段階として、実際に日本語学習者を対象に教壇実習を行い、今までに学んできた理論と実践の統合を目指す。学内実習を行った後、学外実習として日本語教育機関で、日本語教育の実情を見学や教壇実習により学ぶ。また外国人学習者との交流を通して、学習者の母国の文化や、学習者心理、日本語習得過程、異文化適応上の問題などを学ぶ。教壇実習では事前に対象学習者にふさわしい教授が可能になるように、十分な教材分析と指導案作成、教材教具の作成、模擬授業を行う。授業はビデオ録画し（可能な場合）、フィードバック・セッションとして、教授者・観察者間で相互評価を行う。</p> <p>尚、前期の教壇実習については海外にいる相手を想定しているため、オンラインツールを使って実習授業を行う予定である。後期の実習対象機関や実習を行うスケジュールについては予期せぬ事情により変更となる可能性があることを理解しよう。実習の対象となる学習者および受け入れ先機関などの事情を踏まえて、スケジュールを一部変更する場合がある。後期の教壇実習は部分的に集中形式で行う予定である。本科目は学外活動を伴う。</p>										
授業形態	演習・実習					授業方法	グループワーク、実習				
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習先の学習者のニーズを満たす指導案が作成できる。</li> <li>2. 学習者にとって必要な日本語が教授できる。</li> <li>3. 日本語教育機関と学習者の多様性が理解でき、それらに適切な対応をとることができる。</li> <li>4. 仲間と協力して実習先の指導教員や学生に満足してもらえる実習を行うことができる。</li> </ol>										
理想的レベル	学んだことを、自分のことばで他の人に分かりやすく説明できる。										
評価方法・評価割合											
評価方法		評価割合（数値）				備考					
試験											
小テスト											
レポート		10%				振り返りレポート					
発表（口頭、プレゼンテーション）		30%				教壇実習のできを総合的に評価する。					
レポート外の提出物		30%				教案や教材のできを総合的に評価する。					
その他		30%				模擬実習・事前準備、授業、フィードバックセッションなどへの積極的参加とする。総合的に評価する。					
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	-	DP2	-	DP3	-	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	T010105J

学習課題（予習・復習）		1回の学習目安 （時間）
教案や教材の作成、模擬授業・教壇実習への準備、模擬授業・教壇実習への振り返り、その他与えられた課題		4
授業計画		
第1回	オリエンテーション 授業の概要を説明し、履修方法や授業の目的、達成目安、評価の内容と方法を理解する。	
第2回	学習者のレベル及びニーズの把握 面談を通して教壇実習の対象となる日本語学習者のレベルとニーズを把握する。	
第3回	教材分析・教案作成1 教材分析・指導項目分析を行い、教壇実習へ向けた教案を作成する。	
第4回	教材分析・教案作成2 教材分析・指導項目分析を行い、教壇実習へ向けた教案を作成する。教材を準備する。	
第5回	模擬授業1 教壇実習に向けて、模擬授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	
第6回	模擬授業2 教壇実習に向けて、模擬授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	
第7回	教壇実習、フィードバック・セッション 授業担当者A・Bが、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	
第8回	教壇実習、フィードバック・セッション 授業担当者C・Dが、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	
第9回	教壇実習、フィードバック・セッション 授業担当者E・Fが、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	
第10回	教材分析・教案作成3 教材分析・指導項目分析を行い、教壇実習へ向けた教案を作成する。教材を準備する。	
第11回	模擬授業3 教壇実習に向けて、模擬授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	
第12回	教壇実習、フィードバック・セッション 授業担当者A・Bが、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。	
第13回	教壇実習、フィードバック・セッション 授業担当者C・Dが、外国人を相手に実習授業を行う。	

	授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。
第14回	<p>教壇実習、フィードバック・セッション</p> <p>授業担当者E・Fが、外国人を相手に実習授業を行う。</p> <p>授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。</p>
第15回	<p>まとめ</p> <p>これまでの授業のまとめを行う。(日本語教育哲学と前期のふり返り)</p>
第16回	<p>オリエンテーション</p> <p>授業の概要を説明し、履修方法や授業の目的、達成目安、評価の内容と方法を理解する。</p>
第17回	<p>実習対象機関の日本語教育の概要を知る</p> <p>教壇実習を行う学校の日本語教育の概要について解説する。</p>
第18回	<p>学習者のレベル及びニーズの把握</p> <p>教壇実習を行う学校の日本語学習者のレベルとニーズについて解説する。</p>
第19回	<p>授業見学1</p> <p>教壇実習を行う学校で、授業見学を行う(初級クラス)。</p>
第20回	<p>授業見学2</p> <p>教壇実習を行う学校で、授業見学を行う(初中級クラス)。</p>
第21回	<p>教材分析・教案作成1</p> <p>教材分析・指導項目分析を行い、教壇実習へ向けた教案を作成する。教材を準備する。</p>
第22回	<p>教材分析・教案作成2</p> <p>教材分析・指導項目分析を行い、教壇実習へ向けた教案を作成する。教材を準備する。</p>
第23回	<p>教壇実習、フィードバック・セッション</p> <p>授業担当者Aが、外国人を相手に実習授業を行う。</p> <p>授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。</p>
第24回	<p>教壇実習、フィードバック・セッション</p> <p>授業担当者Bが、外国人を相手に実習授業を行う。</p> <p>授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。</p>
第25回	<p>教壇実習、フィードバック・セッション</p> <p>授業担当者Cが、外国人を相手に実習授業を行う。</p> <p>授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。</p>
第26回	<p>教壇実習、フィードバック・セッション</p> <p>授業担当者Dが、外国人を相手に実習授業を行う。</p> <p>授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。</p>
第27回	<p>教壇実習、フィードバック・セッション</p> <p>授業担当者Eが、外国人を相手に実習授業を行う。</p>

	授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。
第28回	<p>教壇実習、フィードバック・セッション</p> <p>授業担当者Fが、外国人を相手に実習授業を行う。</p> <p>授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。</p>
第29回	<p>まとめ1</p> <p>全体のフィードバック・セッションを行う。</p>
第30回	<p>まとめ2</p> <p>これまでの授業のまとめを行いながら、今後、日本語教育についての学習をどのように継続し、身についた知識やスキルをどのように活用していきたいかについて意見を共有し、話し合う。</p>
テキスト	『教案の作り方』アルク（2016）、『みんなの日本語初級 I 第2版 本冊』スリーエーネットワーク（2012）または『みんなの日本語初級 II 第2版 本冊』スリーエーネットワーク（2013）
参考図書・教材/データベース・雑誌等の紹介	<p>『日本語教師のためのアクション・リサーチ』横溝紳一郎（凡人社）（2000）</p> <p>『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上巻』川口義一・横溝紳一郎（ひつじ書房）（2005）</p> <p>『ドリルの鉄人』横溝紳一郎（アルク・オンデマンド）（1997）</p> <p>『クラスルーム運営』横溝紳一郎（くろしお出版）（2011）</p> <p>『まるごと入門 A1 りかい』国際交流基金（三修社）（2013）</p> <p>『まるごと入門 A1 かつどう』国際交流基金（三修社）（2013）</p> <p>その他</p>
課題に対するフィードバックの方法	教案、教材、模擬授業、教壇実習に対するフィードバックを適時に対面で、口頭で行う。
学生へのメッセージ・コメント	<p>1. 授業以外の時間にも教案・教材作成、模擬授業の実施に取り組む必要がある。</p> <p>2. 日頃から次の4点に取り組みましょう：</p> <p>① 既習科目で履修したことをしっかり復習しよう。</p> <p>② 自分の日本語を意識化し、疑問に思ったことはすぐ調べよう。</p> <p>③ 正しい日本語表現を身につけよう。</p> <p>④ 書き順もきちんと復習しておこう。</p> <p>3. 地域日本語教室等でボランティアをすることを勧める。</p>